

正田洋一

議員レポート

新しい三原のために
皆様のお力を
どうぞお貸してください

正田洋一事務所

〒723-0062 三原市本町 1-7-32

TEL 0848-63-0085 E-mail info@shoda-yoichi.jp

HP www.shoda-yoichi.jp



市中心部のグランドデザイン【抜粋】(平成30年3月)

【エリアごとの将来構想】



挨拶

今号では、市長選挙後の議会の模様を中心にお届けします。市長の所信表明から私が行った質問および提案、政策カフェによる意見交換会の模様についても報告いたします。どうぞお読みください。

市長選挙のお礼と新市政に対する私の姿勢

8月の選挙におきまして、私の推薦する岡田吉弘さんが当選致しました。ありがとうございました。引き続きご指導ご支援よろしくお願ひします。選挙に勝ったものは、選挙に負けた者の民意もふまえて、働かなくてはなりません。岡田さんにはそれができると思ひます。

私は、市民の側の代表である議員です。彼とは友人ではありますが、市長と議員の関係において、特に議会という場では、馴れ合いではなく緊張感のある関係でいきたいと思ひます。

前市政においては、前市長と一部の議員、一部の企業による馴れ合いが、様々な疑念を生みだしました。こういう疑念を持たれる関係ではなく、新体制においても、議員として是々非々の立場で、「良いことは良い」、「悪いことは悪い」と言える議員であり続けます。私自身の政治姿勢には何の変化もありません。

皆様のご支援があり、
当選致しました。
ありがとうございました。



定例議会報告

3. 市長の所信表明より（一部抜粋）

情報公開の徹底についてお聞きしました。市長の公約で私が期待しているところです。主旨はこうです。事例から入りました。不燃物処理工場の入札に、入札業者からの疑義が出て、議会人の私としては調査をしたかった。疑義が出た入札業者からすれば、当日に入札方法の変更があり、その後落選が通知されるという不可解なことがあった。議会で私がそれを追及すれば、録音記録が残っておらず、議事録にも残っていなかった。（議事録が残っていないことは翌日の中国新聞にも報道されました）

後に、情報開示請求でわかったことは、1回目と2回目の採点が大きく変わった審査員が数名いることがわかった。議事録が無いことを追及すれば、結果が議事録であり、問題はないと聞き直された。

この事例を説明し、入札制度の在り方および議事録、録音などの客観的証拠を残すよう求めました。

前市長時代の事例ですが、あえて現市長より答弁求め回答をえました。

開かれた市政を実現するためには情報公開は不可欠であり、市政運営の透明性を確保する。

市民が不信感を抱かないような、説明責任を果たす。入札制度の公平性、透明性を担保した、制度設計に取り組むとの回答を得ました。

正田洋一のちょこっとコラム ～しがらみ～

選挙が終わって時間も経過したのでしがらみ論争についてちょっと私の感じた事を少し書いておきます。人間はしがらみがないと生きていけません。8月の市長選挙では、しがらみが争点となり、しがらみを悪とし、しがらみがありなしの論争になりました。そこで言われたのは悪いしがらみだったのだと思います。

私はしがらみについて少し深堀をしてみました。
ある本から、しがらみの定義を引用するところあります。

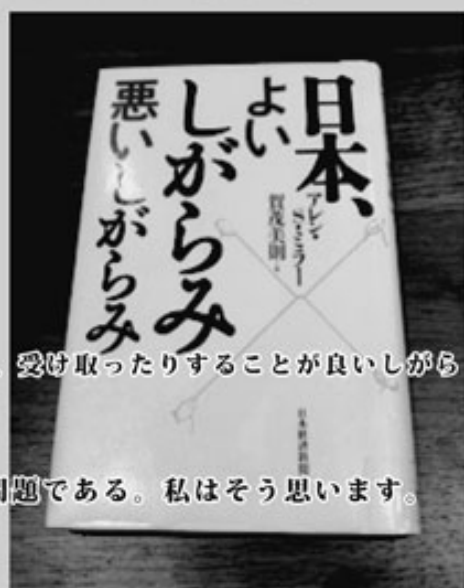
良いしがらみは、「自立した関係」

悪いしがらみは、「馴れ合いの関係」

よいしがらみも悪いしがらみに変化する。

即ち、しがらみが問題じゃなくて、その状態が問題なのだと思います。
河井夫妻の選挙違反事件も裁判中ですが、選挙前にお金をばらまいたり、受け取ったりすることが良いしがらみでないのは明らかです。

繰り返しになりますが、しがらみ自体は、悪ではなくその状態が問題である。私はそう思います。



未来国会では、3 人とも田舎の出身で都会と地方の教育格差に着目し、教育機会のバリアフリー化と題し、学校教育の在り方についての提言を考えました。

正田洋一への提言では私の改善提案をいただきました。

地域の暮らしでは、離島である佐木島へのサイクリングを通して、まちのくらしや意見を聞く機会をつくりました。自転車で楽しみながら1周、島でいろんな人に出会いました。

このプログラムでは、相互の学びを掲げ、私は一方的に若者に意見を押し付けるのではなく、彼らの思いや意見を私が吸収し、私も過去の経験や知識を提供できるよう努めております。

決して、将来政治家を目指すための育成プログラムではありません。インターンを通して、社会の一部を楽しみながら理解する場を与えてあげることができたのか、いつも自問自答しています。



ディスカッション、文献調査



ZOOM で会議を開催



島/パンを求めて佐木島サイクリング

定例議会報告

9月議会のトピクス

1. 空き家対策について

この質問は過去数回行っており、進捗の確認及び新市長への新たな課題認識を持っていただくためのものです。また、倒壊危険空家は、ゴミ屋敷化する傾向にあり、ゴミ屋敷対策条例の検討も求める質問を致しました。

進捗については、今年度末には、指導⇒勧告⇒命令⇒強制執行のうち、一定程度指導期間が経過したため、指導に従っていただけない場合は、勧告に進むと回答を得ました。その場しのぎの対応にも厳しく望むという回答も得ました。

空き家は、これから大きな社会問題になります。行政としても法に基づいた処置を先送りにせずしっかり取り組んでいただくようお願いしました。

2. 産業廃棄物最終処分場について

この質問も3回目になります。今回は、行政窓口の一本化。広島県も含め、担当ごとに問い合わせがたらいまわしになっている他、業者の違反に対し、各課で対応している為、行政指導が甘々になっているところが大きな問題です。

業者の問題事例としては、民地に勝手に杭を打つ、市道を許可なく通行止めにする、田んぼに土砂が流れ込む、工事の看板を設置していない、工事の看板設置をわざと内側にむけて見えなくするなど、悪質かつ巧妙で到底信用できる行動ではありません。そのため窓口一本化、連絡会議の設置と違反業者に対する強い指導を求めました。また、新市長に現地視察及び関係住民との対話についても求めました。

本件については、行政窓口の一本化は三原市の生活環境課とし、週に1回程度は広島県との確認の会議持つとの回答を得ました。

また、新市長とも現地視察も約束をし、実現致しました。

前市政による疑惑や政治事件について

前市政に置いては、複数の疑念が残っていますが、引き続き問題としてとらえている事を報告しておきたいと思います。市長の辞任とともに終わるものではありません。現在は、捜査機関が、調査されており、その状況に応じて、議会でやらなくてはならない場合は、追及します。現在、具体的に述べられることはありませんが、注視していきます。

政策カフェを開催

政策カフェを定期的で開催するようになりました。意見交換のプラットフォームとして定着してきたのではないかと思います。21号では、11回、12回の政策カフェの様態を報告します。

11回では、議員インターンの学生さんたちを中心にまとめた、教育機会のバリアフリー化について語りました。議員インターンに来てくれた3人は、地方と都会の教育格差に注目し、その解決策を導き出す提案でした。教育には、世代ごとに考え方に大きな差があり、あまりまとまった答えがえられませんでした。これも現状を捉える良い機会となりました。別途、議員インターン報告で書きます。

12回では、まちづくりについての意見交換を行いました。

- ①本町西国街道地区の魅力あるまちづくり
 - ②三原港再生にむけたまちづくり
- の2つのテーマを取り上げました。

2つのプロジェクトは、状態が違い①の本町地区は、ワークショップが終わり、ある程度の未来図が描かれているなかで、我々市民に何が出来る、どう取り組んでいくかの現実的な議論をしました。

②の三原港再生については、まずは夢を語る段階であり、実現の可否にかかわらず、まずは夢を出し合ってみようという段階でした。②については、みなさんの意見をまとめて意見書を簡条書きにして提出させていただきました。ワークショップの中の意見としても取り上げられました。

大変有意義な議論となったほか、市の施策に意見を提出することができました。

”政策カフェとは”
未来への提案と課題解決を
行なっていくための
意見交換の場所です



議員インターン報告

議員インターン4回目を実施しました。この度も3人の若者が私の事務所へ来てくれました。一般質問と同じく三原地区です。ずっと続けているのは、市議会、県議会の中でも私だけです。

今回は3人の受け入れを行いました。広大生2名、県広大生1名の3人です。

- ①未来国会（30年後の未来を創造し、10年後の総理ならの政策コンテスト）
 - ②議会傍聴から正田洋一への改善提案
 - ③地域の活動や地域の暮らしを知る
- の3つでした。

▶▶▶ 次のページへ続く